

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 11年11月

～貿易赤字(季節調整値)の継続期間はリーマン・ショック時に並ぶ

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

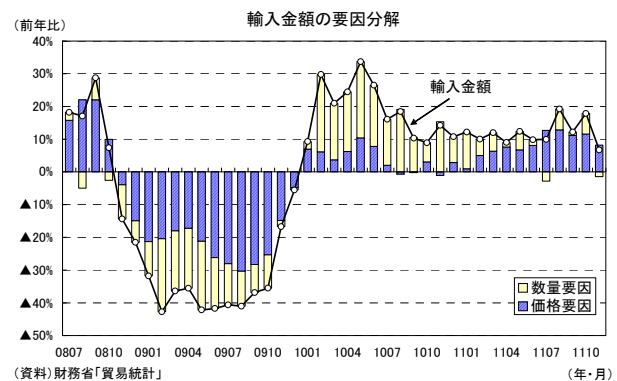
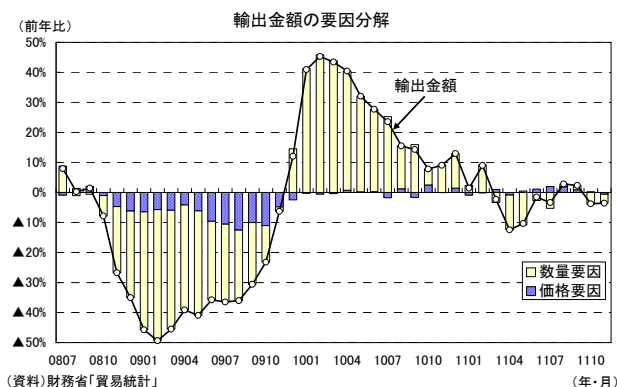
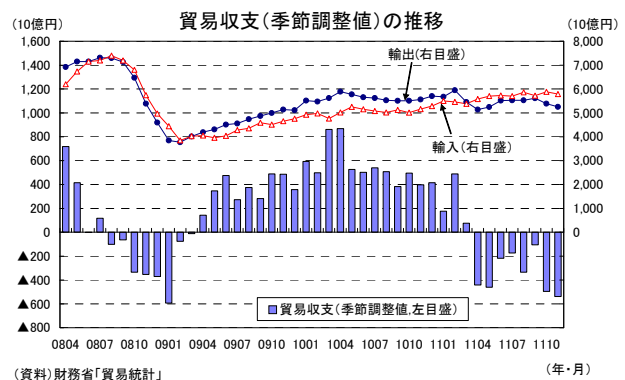
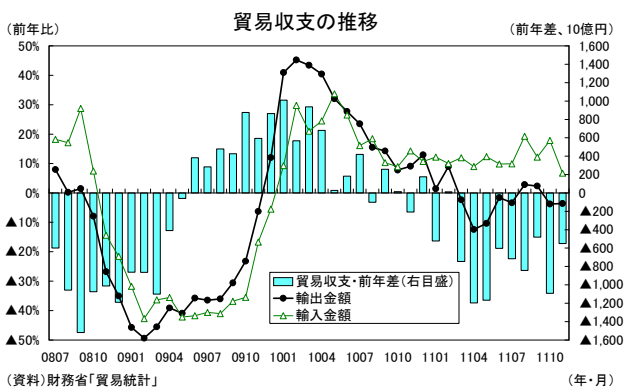
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支(季節調整値)は8ヵ月連続の赤字

財務省が12月21日に公表した貿易統計によると、11月の貿易収支は▲6,847億円と2ヵ月連続の赤字となり、事前の市場予想(QUICK集計:▲4,400億円、当社予想は▲3,927億円)を下回った。輸入は前年比11.4%となり、10月の同17.9%から伸びが大きく鈍化したが、円高、海外経済減速の影響から輸出が前年比▲4.5%と2ヵ月連続で減少し、減少幅は10月の同▲3.8%から拡大した。

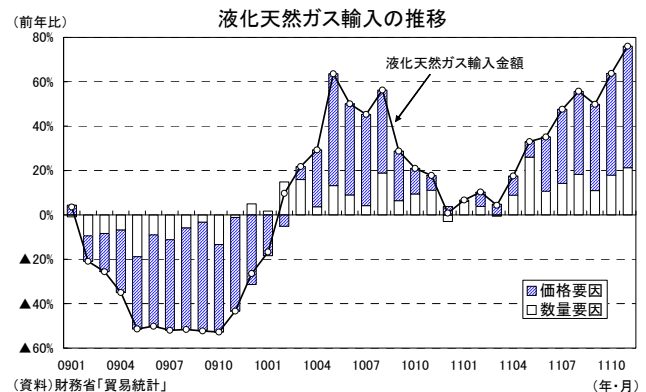
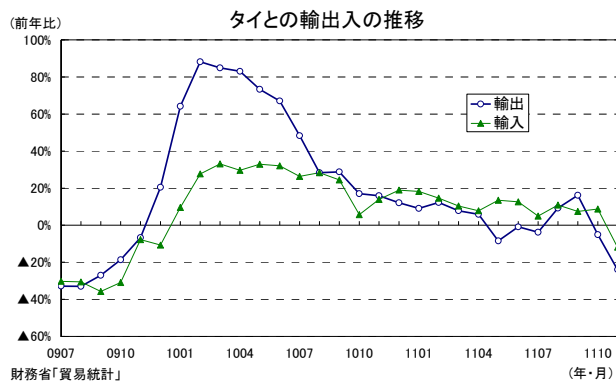
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲4.5%(10月:同▲4.0%)、輸出価格が前年比0.1%(10月:同0.2%)であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲1.0%(10月:同6.0%)、輸入価格が前年比12.5%(10月:同11.2%)であった。

季節調整済の貿易収支は▲5,379億円の赤字となり、赤字幅は10月の▲4,957億円から拡大した。貿易赤字は8ヵ月連続となり、赤字の継続期間はリーマン・ショック時(08/8~09/3)に並んだ。



輸出の減少幅拡大は、円高、海外経済の減速にタイの洪水の影響が加わったことによるものである。タイ向けの輸出、タイからの輸入はそれぞれ前年比▲24.0%、▲11.9%と急速に落ち込んだ。輸入は火力発電の増強に伴う液化天然ガスの急増が大きく寄与している。

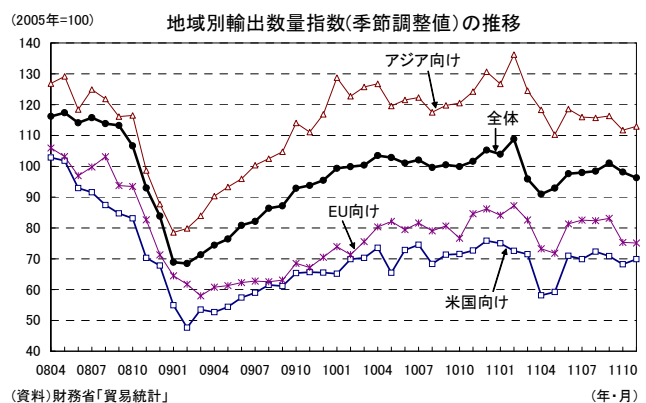
タイの洪水は収束に向かいつつあるため、輸出入への影響が長期化する可能性は低いと考えられるが、円高、海外経済減速に伴う輸出の低迷はしばらく継続することが見込まれる。一方、輸入は燃料費増加の影響などから高めの伸びを維持するため、11年度中は貿易赤字（季節調整値）が続くことが予想される。



2. EU 向け輸出の落ち込みが顕著に

11月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲3.6%（10月：同▲4.7%）、EU向けが前年比▲11.2%（10月：同▲2.1%）、アジア向けが前年比▲9.4%（10月：同▲7.2%）となった。季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比2.5%（10月：同▲3.8%）、EU向けが同▲0.2%（10月：同▲9.4%）、アジア向けが同1.1%（10月：同▲4.0%）、全体では同▲1.9%（10月：同▲2.8%）となった。米国向け、アジア向けは上昇したが、10月の落ち込みを取り戻すまでには至っておらず、7-9月期に対する10、11月の平均は米国向けが▲2.8%、EU向けが▲9.0%、アジア向けが▲3.2%となっている。すでに景気悪化が鮮明となっているEU向けの落ち込み幅が特に大きい。

一方、11月の輸入数量指数（季節調整値）は前月比▲0.6%（10月：同1.9%）となったが、10、11月の平均は、7-9月期よりも0.7%高い水準にある。



7-9月期のGDP統計では輸出が前期比7.3%の高い伸びとなり、外需寄与度が前期比0.6%と成長率を大きく押し上げたが、10-12月期の外需は輸出が減少に転じることを主因として成長率の押し下げ要因となる可能性が高い。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。